

がんさい

がん化細胞 骨髄内で増殖

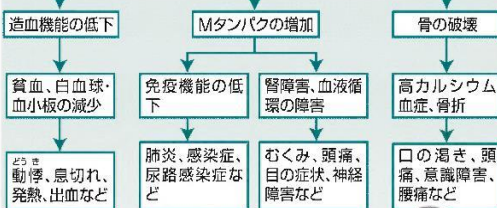
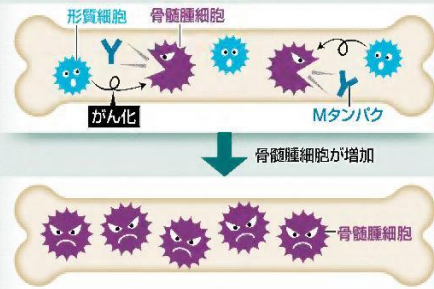


病気の主な3タイプ

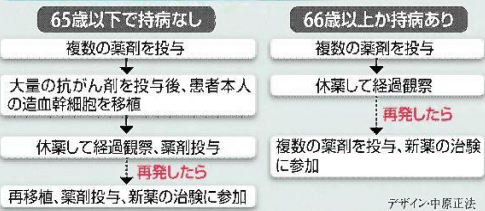
| | |
|-------------|------------------------------------|
| MGUS (エムガス) | 骨髄腫細胞やMタンパクが少なく、症状はない |
| 無症候性骨髄腫 | 骨髄腫細胞やMタンパクが一定量まで増加しているが、症状はほとんどない |
| 症候性骨髄腫 | 骨髄腫細胞やMタンパクが増加。臓器障害などの症状が出る |

進行

発症の仕組みと主な症状



症候性骨髄腫治療の流れ



*「医なび」では、身近な病気の知識や治療の情報を
お伝えします。科学医療部 ファクス06・6361・0521、
Eメールoykagaku@yomiuri.com

血液がんは白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫に大きく分けられます。多発性骨髄腫は全体の1割程度ですが、近年、患者数は増加傾向にあります。国立がん研究センターの統計などによると、「MGUS(エムガス)」と呼ばれるタイプを除

なぜ起きるの?



多発性骨髄腫は血液がんの一つで、昨年末には漫才師の宮川花子さんがこの病気と闘っていることを公表しました。症状が多様であるため、診断に時間がかかるケースがある一方、近年は人間ドックで見つかる人も増えています。(佐々木栄)

多発性骨髄腫

貧血、腰痛、腎障害など症状多様

骨髄が正常に機能しなくなると貧血になり、動悸や息切れ



多発性骨髄腫は主に3タイプに分かれます。血液や尿の



病気が進行して、貧血や腎障害など典型的な症状が出るようになると、「症候性骨髄腫」と診断されます。

どう治すの?

き、年間約7500人が発症しています。患者の大半は60歳以上で、5年生存率は約50%となつていきます。骨の中にある骨髄は「血液の工場」です。血液のもととなる造血幹細胞から、赤血球や血小板、白血球を作り出します。多発性骨髄腫は、白血球の一つである「形質細胞」ががん化し、「骨髄腫細胞」となることで発症します。形質細胞には体に侵入した細菌やウイルスを撃退する抗体を作る役割がありますが、骨髄腫細胞は役に立たない抗体であるMタンパクを大量に作ります。骨髄腫細胞やMタンパクが体内を巡ることで、様々な症状を引き起こします。

れといった症状が表れます。Mタンパクが増えると免疫機能が低下し、肺炎や感染症の原因になります。血液循環を悪化させるほか、局所的に蓄積すると腎臓などの機能を低下させ、むくみや頭痛、神経障害などを起こします。また、骨髄腫細胞が増えることで、骨を壊す細胞が増殖し、骨が弱って骨折しやすくなります。血中にカルシウムが溶け出す「高カルシウム血症」になり、口の渇きや腰痛などが出ることもあります。このように症状が多岐にわたることから、骨粗しょう症など別の病気に間違われ、診断の遅れにつながることも少なくありません。

検査、腰痛に針を刺す骨髄検査、CT(コンピュータ断層撮影法)などの画像検査によって診断します。MGUSは骨髄腫細胞とMタンパクが少量検出される段階です。自覚症状はなく、定期検査で経過を見ます。骨髄腫細胞などが一定量まで増えることで、「無症候性骨髄腫」となります。やはり症状はほとんどなく、原則として治療はしませんが、次の段階に進む危険性が高いと判断された場合は、薬剤の投与も検討します。

せず、ステロイド剤や分子標的薬の中から、複数の薬剤を組み合わせて使います。MGUSは10年間で10%、無症候性骨髄腫は65%の患者が、それぞれ症候性骨髄腫に進行します。症候性になると完治が難しくなり、再発を繰り返すことで、使う薬を変えたりなどして対処することになります。近年は新しい薬が次々と登場しており、治療成績の向上が期待されています。



京都鞍馬口医療センター
島崎千尋院長

症候性骨髄腫にまで進むと、治療は長期戦になります。使える薬の種類は増えてきましたが、効果が高い注射薬は頻繁な通院が必要で薬価も高く、多くの患者さんは薬の組み合わせに悩みます。迷ったときは別の医師の意見を聞くセカンドオピニオンを活用するとよいでしょう。